

Ohmi Net

No. 45  
1・2月号

おみネット



BIWA CHAN



Q1.外国人ともっと仲良くするには?

県民152人巻頭アンケート結果

- 日本人がもっと英語をしゃべれるようになるばいと思う。…43人
- 日本語を教える…22人
- 英語を学ぶ…15人
- ハングル語を学ぶ…21人
- 中国語を学ぶ…7人

●学校や地域・職場で在住外国人との異文化交流を図るための地道な取り組みをする。戦争のない世界にするための教育に力を入れる。

●相互文化と価値観の交換。それから始まる時間をかけた価値観が融合された文化の確立が政治を越えたつながりをもたらすのでは?今の日本には総人口の何割りっていう多数の外国人を平和的に受け入れた文化や歴史は存在しないのだから、これからの大きな課題なのでは!、と思います。

●お互いの文化交流・パーティ

●核兵器の問題が共通の話題として良いと思うので、戦争や紛争の無い世界にするため、多くの人と接することが必要だと思います。

●まず、身近に居る人を理解し、受入れ、仲良くできる日本人になることが一番大切。今や、日本人の考え方・価値観・生き方は千差万別。外見に囚われないで、相手の考えを受止め、理解する能力を培うこと。

●お互いの文化、習慣をよく知ろうとする、お互いの国の食べ物や音楽、娯楽を共有してみる、お互いの言葉を覚えて話してみる、などでしょうか。そこからお互いの人格が見えてくるのではないかと思います。国際交流、異文化理解に関心があるので、そのようなイベントやボランティア活動があればお知らせ戴けたらうれしいです。

●“話すきっかけ”が必要だと思います。いくら外国人と接したいと思って、町中で待つ訳にもいかない。自分が外国に行った時は、ボランティアの人が出会いの場を作ってくれ、そこから知り合いを作っていきました。現地の友人をもてたことは、生活をする上で、とても心強くなりました。気軽に外国人と知り合える場というものも双方が求めているのではないかと思います。

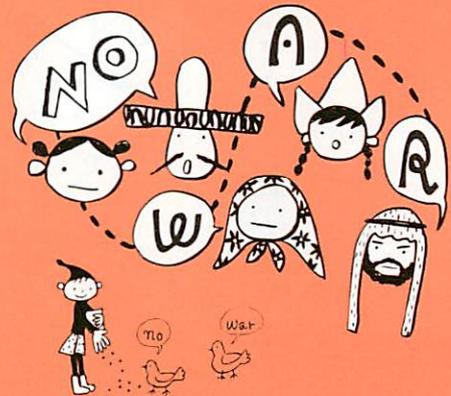
外国人ともっと仲良くするには?

県民152人巻頭アンケートVOL10

Добрый День



こんにちは



◀◀◀ 中面につづく

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

第五回 多文化を感じる社会がもたらすものは

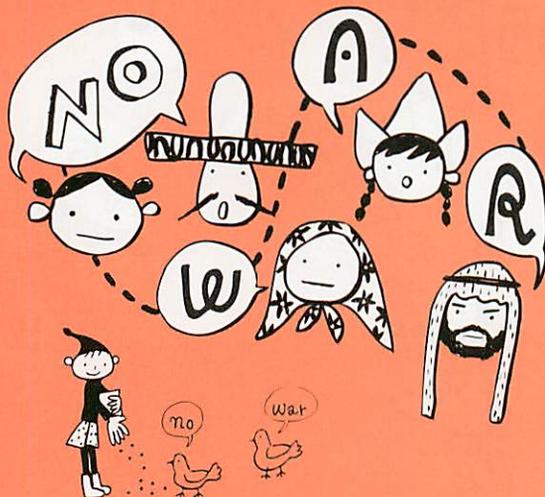
通勤電車や買い物先、病院、子どもの学校など日常生活の多くの場面で、日本社会で働き暮らす外国人と出会う。姉妹都市提携による親善交流が主流であった頃と比べて「国際交流」のとらえ方が変わってきている。

1990年に改正された出入国管理法では、日本人と血のつながった外国人に「定住者」資格が認められたことによって、どのような職種でも働けることになった。これによって、主に南米からの日系人がたくさん働きに来るようになったのだが、多くの人は低賃金の単純労働に就いているのが実態だという。

日本で生まれた外国籍の子どもたちが置かれた状況を聞き、いくつかの課題が見えてくる。言葉や生活文化の違いを感じながら、一方で異質性を受け入れにくい日本社会に気づくのである。日本が他の国と違う部分を探ることで、これまで当然と思っていたことに今一度問いかけ、深く考えるきっかけが生まれる。在日コリアンが抱えた課題は、おなじく彼らにも置き換えられる。名前の呼び方や食べ物、季節や宗教の行事のことなどの生活文化を考えると、これらの問題を感覚的に浅くとらえて過ごしていた自分を知ることになる。

外国籍の子どもたちがおかれている環境だけでなく、親たちが抱える生活の課題は、日本人も抱えている問題と似てはいないか。年金や保険制度といった見えてくる問題の根底に、日本人でさえ暮らしにくい社会に自ら縛っているのではないかという疑いが湧いてくる。外国人に暮らしやすい社会は、当然日本人にも暮らしやすい社会だろう。そういう社会や地域を創っていくためにどのように取り組んでいくのが、いま日本の社会に問われていると考える。

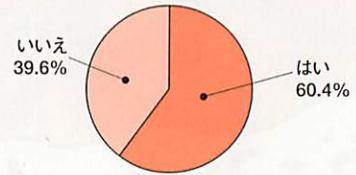
木村光一（事務局スタッフ）



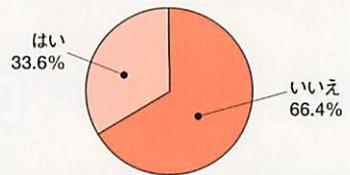
外国人ともっと仲良くするには？  
県民152人巻頭アンケート結果

▶▶▶ 表紙よりつづき

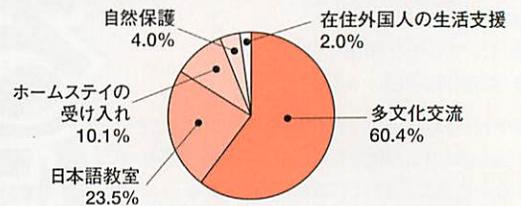
Q2.国際交流に関心がありますか？



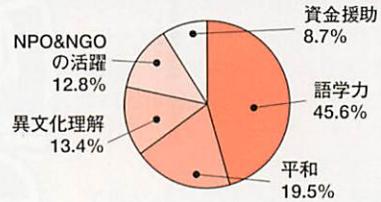
Q3.身近に在住外国人の方が住んでいますか？



Q4.国際交流のボランティアをやるなら？



Q5.国際交流のために一番必要なものは？



アンケート：携帯情報メール発信会社「j2メール」協力  
県民：152名（回答数）  
男性50名 女性80名 性別不明22名 20代：16名  
30代：59名 40代：29名 50代以上：13名 不明：35名

【3月号のアンケート】  
次回3月号は滋賀県をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくは「センターインフォメーション」をご覧ください。

CONTENTS

巻頭コラム●アンケートから考える

多文化を感じる社会がもたらすものは ..... ①

特集・Oh!Me!Eyes... ②

KIRARI★INTERVIEW... ⑤

私たち「きらり」輝いています!NPO

- NPO法人滋賀コリアン生活サポートセンター(多文化共生)
- 甲西国際交流サークル(KIC)(国際交流)
- インターナショナル滋賀(多文化共生)

がんばれ!NPO 応援団... ⑦

【めとと★コラボ】

【おうみネット講座・心の通う情報誌づくり】

【ONLY ONE リレーエッセイ】

【スローグッズ探検隊】

行って来て見て情報BOX  
1月・2月..... ⑨

# 異文化の中で暮らす子どもたち 〜在住外国籍児童を取り巻く状況を考える〜

県内には二万五千人を超える外国籍住民が暮らしています。最近では定住化の傾向から、外国籍の子ども数も増えています。

外国籍の子どもたちは文化・生活習慣の違いや言葉の問題など、多くの問題や悩みを抱えています。今回の「おうちネット」では、子どもたちを取り巻く状況を理解し、広く支援の輪が広がることを願って、外国籍の子どもたちを支援している方による誌上座談会をお届けします。  
※今回の座談会は十二月一日に近江八幡市にて公開で行いました。



●12月1日に行われた公開座談会の様子。

■石田さんは相談員として学校を回っておりますが、子どもたちはどんな問題を抱えていますか。

右田 今関わっている子どもは十五人で、学校から派遣の希望があると、その学校へ入ります。中学生では学校へ来られない子、授業についていけない子が多い。不登校ではないが、不登校気味という状態ですね。

前田 日常会話は大丈夫だけど、やはり国語や社会など、授業での日本語ができないから、授業についていけない。ついて行けないから結局、教室がおもしろくない。そんな子どもたちも日本語指導の時間には喜んで参加してくれます。そこが子どもたちの唯一の居場所になっています。

■外国籍ということで「いじめ」はありますか。

右田 自身の経験ですが、小学校五年生の時、同級生からいやなことを言われたので反発したら「国へ帰れ」と言われ、シヨックを受けて学校へ行けなくなりました。ここにおられるオルガさんと担任の先生が熱心に対応してくれたので学校へ戻ることができました。それから私自身、中学校から本名を名乗らず「右田春美」で通っていたので、たぶん先生も含めて、私が外国籍と知らない人も多かったと思います。

■どつして本名を名乗らなかつたのですか。

右田 「右田マリアナ春美」と名乗ることで、呼ばれる時に人と違うし、その時の周りの反応も怖かった。「むこうではどやったん」

とかいろいろ聞かれたり言われることがすごく嫌でした。

前田 私も同じような経験があります。結婚後、近所に紹介された時、ちよつとした手みやげには「前田豊子」と家族が書いてくれました。「オルガ」が抜けているんですね。その時私は「ああ、これは日本の特殊なやり方なのか」と思いました。「外国からお嫁に来た人」と聞かれた皆さんは私が日本人の顔をしていることを知ると驚いていたように思います。相手が思っている外国人のイメージと私とのギャップがあったのでしよう。私もそういう面でカルチャーショックを受けて、その後「前田豊子」でずっと生活していました。でも職場では「オルガ」と親しんでいただけ「このままの私を受け

子どもたちの問題の背景には、親の就労事情という大きな問題があります。これらの問題は、地域のみんなで考えて、支えていかないと、一人や二人で解決できる問題ではないのです。

入れてくれているんだなあ」と感じて嬉しかったです。時々外国籍とバレましたが、日本人の名前で生活する方が楽な面があるのではないかと思います。やはり本名で暮らすと、遠慮しながら気を遣いながら生活しなければならぬことがあります。

■大人でも遠慮しながら暮らしているということですが、子どもたちはもつとしんどいでしょね。

前田 多くの子どもたちは厳しい中でも本当にたくましいと思います。小学校三年生のマリアナさんと出会ったとき、他の学校にも四人の外国籍の子どもがいました。日本語は十分ではありませんでしたが、みんな

努力して高校に進学しました。現在、通称名で通っている子どもがおりますので、ルーツを表に出さない心の問題は自分たちの問題ではなく日本の社会の問題ではないかと思っています。

初田 在日コリアンも本名を名乗れない、名乗らない子どもたちが多いです。同じことが、マリアナさんの世代にもある。違いを認めない文化とか社会が日本にあるように思います。それからオルガさんが外国籍であることが「バレる」と表現されましたが、以前「外国籍の子どもはいますか」と、私に関係している団体が各学校に調査したことがあります。答えは「プライベートだからバレると困る」ということでした。教員の意識は、子どもにも伝わりません。そういう雰囲気や意識を変えていかないと、多様な文化を認めていく社会にはならないと思います。

■「バレる」と言うよりも「私は何々」と堂々と言える社会でないといけないと思うのですが。

右田 私は、その子自身の問題もあるので、本名を名乗らないことそれ自身は悪いとは思っていません。ただ、その子がなぜ本名を



## PROFILE

初田元明さん

財団法人滋賀県人権センター職員。10数年前から在住外国人の子どもたちを支援する活動に参加。在日外国人の教育を考える会滋賀会員。

名乗れないのか、なぜ名乗れないのかを周りの人に知って欲しいし、知らないといけないと思います。それに、学校を回っていると思うのは、外国籍の子どものことにかかわらず、先生が子どものことを考えている余裕がないように感じられますね。

初田 先生も人だから、個々の意識の問題だと思っています。個人的に取り組んでおられる先生もいますが、学校全体として取り組むという具合にはなっていません。ある意味学校の問題が外国籍の子どもが来たことによって表に出てきたとも言えます。

前田 学校でのシステムはあくまでも日本の学校に適応させるという方向で、違いを認め合うというものでないですね。いろんな



## PROFILE

前田オルガ豊子さん

11年前に来日し、その後日本人と結婚。現在、近江八幡市パートナーシップ推進課で外国人相談員をするほか、外国籍住民を支援するためさまざまな活動に取り組む。

ことを認めていくことで日本人も日本の社会も豊かになると思います。

■学校以外のところではどんな問題がありますか。

**前田** 学校生活がうまくいかない子どもたちは、週末や学校へ行っていない日にゲームセンターへ集まっています。その子たちは学校へ行けないという心の問題がとても大きく、学校と違うところに居場所を探しています。ですから、居場所づくりをすることが必要があると痛感しています。また、最近では子育てに関する悩みや児童虐待に関する相談もあります。

**初田** マリアナさんはオルガさんに出会えて学校へ戻ることができたけれど、現実には支援してくれる人に出会えていない子どもの方が多いのです。本来は外国籍であっても、子どもの権利条約で子どもの権利を守らないといけないと決まっているのに、地域社会がほったらかしにしている部分があるように感じます。このことは地域や周りで解決していかないといけない問題だと思います。

■学校だけの問題ではないようですね。日本の社会にも問題があるわけですね。

**前田** 子どもたちの問題の背景には、親の就労事情という大きな問題があります。多くの日系人は就労時間が長くほとんど家がないので、親子の対話も少ない。その結果、

子どもは母語で話さなくなってきました。また、職場でも外国籍ということでは差別され、結局、外国籍であるためのマイナスイメージしか子どもに伝わらない。これらの問題は、地域のみならずで考えて、支えていかないと、一人や二人で解決できる問題ではないのです。

**初田** 本当は個人の多様性を認めていく方がみんな生きていきやすいのに、何か締め付けられていますね。自分も大事にされていないから、おまえも我慢しろという社会。それがいろんな人権問題のベースになっているように思います。

**前田** いろんな苦しいことも抱えています。が、人と人がつながるとすばらしいことができる、樂觀もしています。ブラジルでは日本人は日本人らしく、また、ドイツ人、イタリア人、ポルトガル人等、言葉も文化もそのまま暮らしています。そういう多文化社会を見てきたので、あきらめないで、



PROFILE

**右田マリアナ春美さん**

小学校3年生の時に来日。高校卒業後、現在、近江八幡市教育委員会にて外国語対応相談員。外国籍児童を理解できる教師になりたいと語る。

## 参加者の声

- 皆さんのエネルギーのすごさを見てある意味安心しました。今後もこのような機会があれば参加したいです。
- いろいろな問題が分かりとても良かった。生の声が開けたことが一番良かった。
- 公開座談会非常におもしろいと思います。ぜひ習慣化していただければ。
- 誌面では伝わらない雰囲気やエピソードを味わい聞くことができ良かったです。またこんな機会を。

■今日はありがとうございました。  
日本でも同じようにできたらいいですね。そうなるかと信じて活動しています。

### ■座談会を終えて

今回の座談会は、外国籍の子どもたちがおかれている現状を広く知っていただきたいため、また、支援の輪が広がることを願って公開で行いました。参加者は在住外国人支援をはじめ子育て支援や児童虐待防止の活動をしている人、あるいは「心の病で通院される外国籍の子どもさんが多くなってきたので、その背景を知りたくて」参加された病院勤務の方などで、県外からの参加者もありました。座談会終了後、外国籍の子どもたちがおかれている状況や各自の取り組みについて意見や感想、情報が交換され、新たな出会いも生まれ、支援の輪が広がったことと思います。子どもたちの問題を解決するには、やはりボランティアの取り組みだけでは限界があり、学校を含めた地域全体がなぜ彼らがそこにいるのか、なぜそうになっているのかを理解し、支えていく必要があると思います。

(事務局 川勝)

# NPO きらり 輝いています！

●「一日お楽しみ会」の様子



地域でボランティア活動を広めようと奮闘しているあなた、新たにNPO活動を立ち上げて琵琶湖のまわりを走りまわっている君、「淡海」というフィールドで、静かだけど、どこか「きらり！」と輝いているボランティア活動や市民活動で活躍されているNPOの皆さんをご紹介します。

## 求めることから多文化共生メッセージを発信していく拠点へ

「冬ソナ」で、一気に火がついた韓流ブーム。これまで近くて遠い国だった韓国・朝鮮に親近感をもつ人も増えたことでしょう。でも、ごく身近にいるご近所の在日コリアンの実情についてはどれだけ知っているでしょうか。

今回は在日高齢者・障害者のくらしを支えるNPO 滋賀コリアン生活サポートセンターを訪ねました。

在日コリアン高齢者



●在日とコリア文化にふれる集い

の福祉サービスの利用率は決して高くありません。その背景には経済的な事情や文化上の障壁、地域社会の理解の欠如などがあります。こうした状況に対してサポートセンターでは在日コリアンのニーズにあった事業をモデル的に実施しながら、当事者に対しては民族的固有性に配慮した助言・援助を行うことで、地域社会に在日問題の理解を広めることを目指しています。

NPO法人化に先立つ九〇年代には無年金高齢者・障害者への救済制度確立の運動や、滋賀県の在日歴史資料の収集・保存に取り組みしてきました。現在、在日一世を対象とした訪問介護事業のほか、毎月一回、ふれあいデイサービス事業として「一日お楽しみ会」を運営しています。そこに集まる参加者から「自分たちが気軽に集まることのできる拠点



●メンバーの皆さん。左から、代表の全敬子さん、朴茂順さん、金光子さん、鄭淳子さん

が欲しい」との声を受け、昨年十一月に「デイサービスけなり」を開設しました。「一般のデイに行っても文化やことばの違いから他の利用者とは交流できない。ここでは利用者を理解したサービスを提供できます」と理事長の全敬子さん。南北双方の民族団体や日本の障害者団体と協力しつつ、多文化共生のメッセージを発信する——コリアン生活サポートセンターはそんな拠点になっています。

(編集ボランティア 松田達也)

## 多文化共生 NPO法人滋賀コリアン生活サポートセンター

NPO法人滋賀コリアン生活サポートセンター

代表 ● 全敬子

設立 ● 2002年12月

会員 ● 10名

連絡先 ● 大津市昭和町14-7A2 (デイサービスけなり)

TEL : 077-534-0907

住民の5%が外国籍住民だという事実を、  
行政施策に取り入れてもらえたら

旧甲西町（現湖南市）は滋賀県内で最初に工業団地が作られ、約二千人の外国籍住民がいる町です。甲西国際交流サークルは町内で生活する外国籍の方々に「甲西へ来てよかった」と感じて



●日本語教室

もらえよう、行政による日本語教室の後を受け、教室を手伝って、人たちが中心となって、一九九七年に発足しました。

当初は国際交流員

とともに、イベント企画・情報誌作り・日本語講座の三つのグループで活動をスタート。その後状況の変化があり、現在は日本語教室を春と秋に十回程度開催し、



●レクリエーションで書道をする様子

その他に生け花や書道の体験、グラウンドゴルフやパーティを企画し交流を図っています。登録している会員は社会人十五名。講師料など殆どが無償ながらも、自主的にびわこ日本語指導者ネット（BNN）の養成講座に通

い自分自身の能力を磨いています。いろんな国を知り、友人付き合っていくのが励みだとか。会員が定着してきたことから、以前のように情報誌作りを取り入れるなど、活動を広げる可能性を探っています。

行政の委託で運営している教室ですが「単なる『日本語教室』だけではなく、住民の5%が外国籍住民だという事実を、行政施策に取り入れてもらえるよう声をあげたい」と発足時からメンバーである古谷さん。「彼らの厳しい環境に対する支援体制を整える意味でも彼らのことが理解できる外国籍職員が必要では」と言います。活動の中で相談会を設けたこともあり、支援の場作りも今後の課題のようでした。

（編集ボランティア 井上多佳子）



●発足時からのメンバーである古谷昌代さん

甲西国際交流サークル（KIC）

代表●立岡礼二郎  
設立●1997年  
会員●15名  
連絡先●湖南市三雲3080-118  
TEL：090-6559-3895（KIC専用）

外国籍住民にも日本国籍者と同じ生活保障を

滋賀県でも年々増加傾向にある、外国人労働者とその家族。彼らを取り巻く問題は多岐にわたります。それらの問題をブラジル人に特化し、支援している

療などの、彼らにとって必要最低限の生活保障が日本国籍者と同じようになされている社会こそが、本当の意味で『国際社会』

であると思います。松井さん。

多文化共生 インターナショナル滋賀

団体「日本ブラジルゆーあいネット」代表の松井高さんは、自分たちと同じように活動する団体や個人のネットワークが必要であると考へ、「インターナショナル滋賀」を発足させました。会議や合宿を実施し、意見交換をしたり情報共有をすることによって共通する課題を見つけ、それらの解決に取り組んでいます。「就労、教育、医



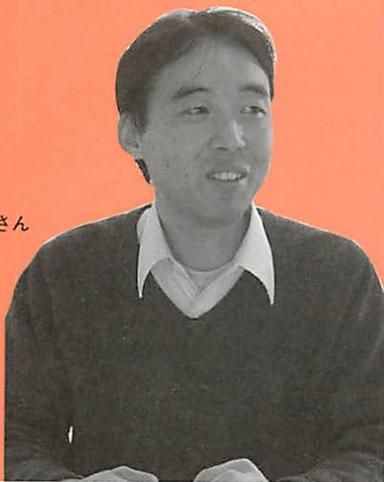
●定期的に行われる意見交換の様子

なによりも、彼ら自身が自国の文化や言語に誇りを持って生活できるために、地

域社会ができることは何かを考えることが大切なのだと言います。

現在、県の国際協会の呼びかけによって、湖東・湖南地域のネットワーク推進会議が行われ、自治体やNPOの連携が始まっています。また地域の中でも彼らに対する理解者が増えるなど、少しずつではありますが、着実に前進しています。『インターナショナル滋賀』の点と点を線でつなぐ活動はこれからもますます活発になっていくでしょう。

（編集ボランティア 村上華代）



●代表の松井高さん

インターナショナル滋賀

代表●松井高  
設立●2004年4月  
会員●10名  
連絡先●草津市草津3丁目13-70  
おうみNPOセンター内  
URL：http://homepage1.nifty.com/brasil/

# リレーエッセイ

紙上交流誌  
「わいわい広場」  
編集員

研谷 三枝さん



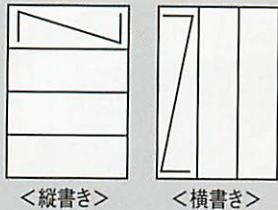
「わいわい広場」は県立視覚障害者センターが日頃出かけにくく、出会いの場が少なくなりがちな視覚障害者のために誌上でふれあっていただくという交流誌で、編集委員の多くもまた視覚障害者です。私は子どもの頃に見えにくくなったものの、子育てが一段落つく最近まで同じ立場の友人を持つ機会がありませんでした。ある時、障害者スポーツを通じ、焦る事もなく気を使う事もなく本当の自分を表現できる仲間と場にめぐり合う事ができました。「ああ、ホッとする。」「わいわい広場」もその一つです。読者の方々にもこんな風に感じていただけたらなど、取材に編集に楽しく作っています。「ポチポチ行こう」。そんな言葉をそっと呟きながら…。

## 「ポチポチ行こう」

一色三郎さんです。  
今回は視覚障害者の伴走をしてもらえる

### ②紙面レイアウトの段組作成

紙の大きさが決定し、縦横使用が決まったら、段組を考えます。まずは、横書きにするか、縦書きにするかを決めてください。  
※基本的には左開きの場合は横書き、右開きの場合は縦書きにします。



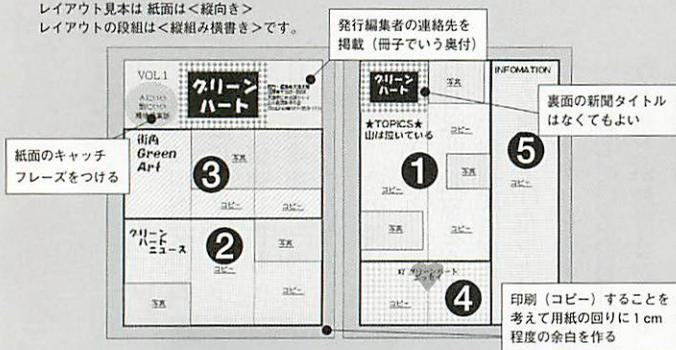
### ③紙面レイアウトの段組作成

※目立つ位置（ページ物で考えるなら表紙扱い）にはできるだけ、写真や絵などのビジュアルのある項目を考える。

#### 【「グリーンハート」の例】

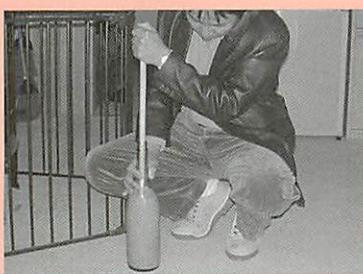
項目	①山は泣いている	②グリーンハートニュース	③街角GreenArt	④MYグリーンハートエッセイ	⑤INFORMATION	⑥その1/コピーで説明	⑦その2/写真3点	⑧その1/コピーで説明	⑨その2/写真2点	⑩その1/写真で説明	⑪コピーのみ	⑫その2/イラスト	⑬コピーのみ
	○その1/コピーで説明	○その1/コピーで説明	○その1/写真で説明	○コピーのみ	○コピーのみ								

レイアウト見本は 紙面は<縦向き>  
レイアウトの段組は<縦組み横書き>です。



※次回は最終回。「文章の作成とフィニッシュ」についてです。

がねらいです。「食」は全ての入り口。例えば、自然素材から箸や茶碗などの道具を手作りし、割り箸のムダを学んだり、お米のとぎ汁は琵琶湖を汚すから畑の肥やしに、食器洗いは洗剤を使わず手作りのアクリルたわしで洗うなど、ごく自然に環境問題の解決法を、疑似体験でなく本物の体験の中で身につけてもらう手法です。現在、町内の7~8名の小学生が月曜~金曜日の放課後に通ってきています。



▲米つき体験をする取材スタッフ

今年、畑や田んぼも借りて、田植えから収穫、食べるまでの全工程を中抜きすることなく、子どもが経験則で多様な時間軸を学べるように本格的な農業体験に取り組む計画です。新旭町は山と里と湖が程よい距離にあり、今も残る水を守るお年寄りの知恵や伝承文化など豊かな地域資源が数多く埋もれています。里山や水辺、人を最大限活用しながら、子どもの感性に磨きをかけて、考える子どもを育てる“スローな教育”の持続性のある実践が期待されます。

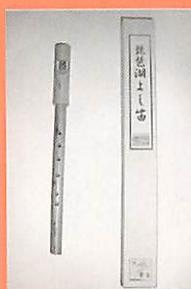
今年、畑や田んぼも借りて、田植えから収穫、食べるまでの全工程を中抜きすることなく、子どもが経験則で多様な時間軸を学べるように本格的な農業体験に取り組む計画です。新旭町は山と里と湖が程よい距離にあり、今も残る水を守るお年寄りの知恵や伝承文化など豊かな地域資源が数多く埋もれています。里山や水辺、人を最大限活用しながら、子どもの感性に磨きをかけて、考える子どもを育てる“スローな教育”の持続性のある実践が期待されます。

【問】NPO法人クマノヤマネット  
(新旭里山体験交流館もりっこ内)  
TEL・FAX.0740-25-7582

## スローグッズ探検隊

NPO団体が開発した人や自然にやさしい商品をご紹介します!

### 琵琶湖葦笛



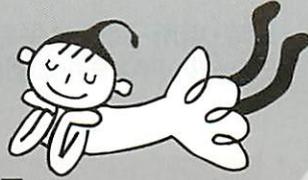
琵琶湖の美しい風景を作るヨシは、古くからすだれなどの材料として、暮らしの中で利用されてきました。そんなヨシから生まれたのが「琵琶湖葦笛」です。考案されたのは近江八幡で20年来、ヨシ群落を見てきたという菊井さん。音楽好きということもあって、ヨシで管楽器を作ることを思いついたと

か。そして苦難の末にできあがったのが、小指ほどの太さのヨシ笛。すだれの廃材を使った自然にやさしい楽器です。その音色はとても耳に心地よく、葦原を通り抜ける風のようなやさしさがあふれています。小学校でリコーダーを習ったことがある人なら誰でも演奏できるという手軽さから愛好家も増え、各地に演奏サークルも誕生。滋賀を代表する楽器として、ますます広がっていきそうです。

琵琶湖葦笛のご購入  
予約制で、製作には多少時間がかかります。  
葦紙製の箱・半透明保存ケース入り  
申込み●菊井さんまで、メールにて。  
e-mail : s-kikui@mrj.biglobe.ne.jp

# がんばれ!NPO 応援団

市民活動を元気にする情報コーナー



## おみネット講座 心の通う情報誌づくり

市民活動の情報発信のためのアドバイス。  
★ご意見、ご質問を受け付けています。

### [VOL.5 レイアウトの作成]

#### [1] 新聞タイトルを決定する。

「情報誌制作の作業手順」として、今回は「編集内容を決める」ということで説明しました。次の作業は「レイアウトの作成」です。コピーを書く前にレイアウトを先に作成する意図は、文章量の確認の意味もありますが、大事なのは常に紙面のイメージを持って取材や資料集めをするということです。頭の中にレイアウトが描けていると、「写真はこの場所に1点、顔の向きは左向きで・・・」と、スムーズに取材を運ぶことが出来ます。文章量によっては、どこまで突っ込んだ取材をするのかも判断できます。市民活動している皆さんは仕事を持っておられる方も多いと思います。忙しい中、こうした広報物を発行するには、いかに時間を短縮させ、無理なく、効率的に紙面を作成するかがポイントです。※フォーマット（レイアウトの形）が決まれば、次号からは大きくレイアウトの変更がない限りは、同時進行で取材や資料集めを進めてください。

#### [2] 人の目をひき、読みやすい工夫のために

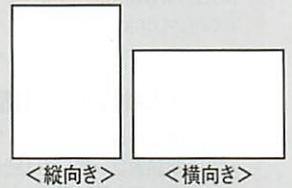
レイアウトとは紙面の見せ方です。フリーペーパーとして、手に取ってもらえることができるのかは、このレイアウトの作成が大きな比率を占めます。いくら素晴らしいメッセージが書かれていても、手に取って見てもらわなければ意味がありません。人の目をひき、また読みやすい工夫が出来ているか。それには、文字の大きさや行間（文字と文字との間隔）、イラストや写真などのビジュアルでひき付ける工夫が必要です。また、余白も読ませる工夫として大事な要素となります。

#### [3] レイアウトの作成手順（一般的な新聞紙面の広報物レイアウトの一例です）

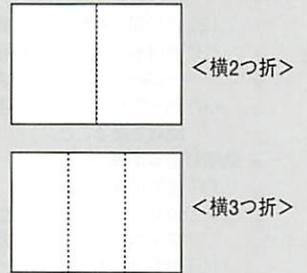
##### ①紙面（誌面）の大きさを決める

紙面の大きさは基本的には自由です。但し、印刷することを考えると、定形の大きさ<コピーサイズ/B5、B4、A4、A3>にしておいた方がいいでしょう。※紙面を縦で使用するか、横で使用するかも考慮しながら大きさを決定して下さい。

コピーサイズ/B5、B4、A4、A3



●同じ紙サイズでも、横か縦かでイメージは変わってきます。  
●横使用の場合は中央で折り目（見開き使用/BOOK型）を入れるなどして、見せ方に変化をつけましょう。  
縦使用の場合もB4以上の大きさの用紙には中央で折り目を入れるなども工夫も必要です。



## めとてとコラボ

市民と行政、市民と企業などの、新しい市民協働（パートナーシップ）のカタチを紹介します。

### 全ての入り口である「食」や「農業」を通じて 子どもに疑似体験でなく本物の体験をしてほしい

..... 子育てプロジェクト里山塾



▲新旭里山体験交流館「もりっこ」



▲新づくり&炭焼き施設



▲手製の掃除機を利用した装置で水を飛ばしている



▲古文書を漉き直してハガキづくり

スロータウン構想を掲げる新旭町で昨年10月、琵琶湖を望む里山に新旭体験交流館「もりっこ」が開設されました。同時にNPO法人クマノヤマネット（中村美重理事長）が、循環型の里山環境で「子育てプロジェクト里山塾」を開校。町の施設でNPO法人が運営する、人と自然の共生を学ぶ子どもの放課後の居場所は全国でも珍しいと注目を集めています。

スタッフは中村塾長（おっちゃん先生）とアシスタントの寺本マコさん（おばちゃん先生）の2名。塾長は元小学

校の校長先生で「しんあさひ農業小学校」（平成7年に開校）の世話人をしていた経験から、「日本ほど食べ物をおろそかにしている国はない。子ども達に食べ物は買うのではなく、作るものであることを伝えたい」と「農業」や「食」をテーマにした教育の重要性を訴え、町が趣旨に賛同し施設を無償で借りることができるようになったそうです。

里山塾では「工の時間」でなく「農の時間」が基本。カリキュラムが決められているのではなく、天候や季節、子ども達の主体性を大切にしながらその場で組み立てられていきます。田んぼや里山での遊び（体験）を通して、言葉では教えられない自然や人に対する思いやりや五感を育むの

# 3月・4月の掲示板 情報募集中!

日時・場所・問合せ先等を明記の上、2月8日までにEメール、FAXまたは郵便でセンターまでお寄せください。

## 笹川スポーツ財団 平成17年度SSFスポーツエイド募集

内容●スポーツ団体が行う大会、教室・講習会、国際交流、青少年のプログラム、スポーツキャンプ事業に対する助成金制度“SSFスポーツエイド”の平成17年度助成事業を募集します。  
重点項目●(1) 青少年のスポーツ参加を積極的に進める事業 (2) 指導者を積極的に育成する事業  
※上記事業の実施に必要なスポーツ用具の整備にも支援します。  
受付期間●1月4日(火)～1月31日(月)まで 消印有効  
【問】笹川スポーツ財団 業務部 業務課  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16  
Tel:03-3580-5854 Fax:03-3580-5968  
http://www.ssf.or.jp/  
aid@ssf.or.jp

## 財団法人地球市民財団助成金交付申請募集

申請者の要件●  
(1) 申請者は、個人又は団体のいかなを問いません。但し個人又は団体としての管理能力を有すること。  
(2) わが国に実態的な住所を有する個人又は団体であること。  
(3) 助成事業に関して営利的、宗教的活動及び類似の行為を一切行わない個人又は団体であること。  
(4) 同一事業に対し他の財団等の助成金等を受けていない個人又は団体であること。  
助成対象事業●  
(1) 自然災害関連事業  
開発途上国における地震、洪水、暴風及び豪雨等の自然災害による罹災者の復旧のための物資又は資金の供与。  
(2) 教育施設関連事業  
開発途上国における、小学校、中学校等の義務教育を行う教育施設の設備拡充及び建設。  
(3) 生活環境向上関連事業  
開発途上国における住民の公衆衛生及び社会福祉等の生活環境の向上のための援助活動。  
(4) 人材育成関連事業  
開発途上国に対する援助活動を行うための人材育成及び派遣又は研修員を受け入れての技術研修。  
申請書受付期間●当該年度の1月1日から1月末(到着分)まで。  
【問】財団法人地球市民財団事務局  
住所:〒102-0093 東京都千代田区平河町2-14-3  
TEL:03-3234-5188(平日10:00～17:00)  
FAX:03-3234-5770

## 平成17年度 河川整備基金助成事業募集要項

趣旨●今後の河川整備は、健康で豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した、安全で個性を育む活力のある社会の実現に向けて、流域の視点に立って人と川との関わりをより強めることを目標として進めることが必要となつています。河川整備基金助成事業は、上記の目標に基づき国・地方公共団体の河川整備事業等の効果的・効率的推進に寄与することを目的として、河川・ダム・砂防・海岸等(以下「河川・ダム等」という。)に関わる多様な活動に助成する事業です。  
助成事業●河川・ダム等の将来に大きく寄与する公共性の高い以下の事業に対し助成を行います。  
(1) 調査・試験・研究(1-1指定課題助成、1-2一般的助成)  
(2) 環境整備対策  
(3) 国民的啓発運動(3-1一般的助成、3-2継続的助成)  
助成対象者・テーマ等●  
調査・試験・研究 本助成は、大学の研究者等が行う、国・地方公共団体の河川整備事業等の効果的・効率的推進に寄与するような調査・試験・研究(以下「研究等」と言う)に対し、助成を行うものです。助成者側が、特定のテーマを指定して重点的に助成を行う「指定課題助成」と様々なテーマの研究等に対して助成を行う「一般的助成」とがあります。  
申請書提出期限●(1)平成17年1月末日必着  
【問】(財)河川環境管理財団 大阪研究所  
住所:〒540-0008 大阪市中央区大手前1-6-4 はなビル7F  
TEL:06-6942-2310 FAX:06-6942-21180  
e-mail:info-o@osaka.kasen.or.jp  
URL:http://www.kasen.or.jp/

## お知らせ

### 淡海ネットワークセンターブックレット最新刊のお知らせ

●ブックレットNo.23(最新刊)  
「NPOの本質とその経営とは」加藤哲夫  
※第1回「わくわく市民活動ゼミナール2004」の講演記録をまとめたものです。  
●ブックレットNo.22  
「連携の可能性をさぐる」～おうみ市民活動交流会の記録～  
●淡海ネットワークセンターブックレットバックナンバー  
ブックレット No.1～21 / 1冊 300円  
No.22～ / 1冊 500円



### ☆既刊

- No.1 「私たちがひらくこれからの地域社会—新しいパートナーシップを考える」
- No.2 「市民活動の意義と役割」 山岡義典
- No.3 「市民活動促進のための法制度をめぐる議論」 雨宮孝子
- No.4 「これからのNPO経営—おうみ市民活動交流会記録」
- No.5 「NPOのための資金獲得術」 早瀬昇 【完売】
- No.6 「欧米のNPOの事例に学ぶ」 跡田直澄 【完売】
- No.7 「市民・企業・行政のパートナーシップを求めて」 【完売】
- No.8 「NPOとボランティアの創造的な関係」 播磨靖夫
- No.9 「NPOと市民社会—介護保険制度を通じて考える」 石川治江
- No.10 「現代社会と非営利組織」 北村裕明
- No.11 「人も元気、活動も元気、地域も元気—おうみ市民活動交流会記録」
- No.12 「地方分権と市民社会」 富野暉一郎
- No.13 「NPO / 市民活動団体のためのボランティアマネジメント」 筒井のり子
- No.14 「日本のNPOの現状と課題」 田尻佳史
- No.15 「新しいコミュニティとは?—おうみ市民活動交流会2001記録」
- No.16 「NPOがつなく学校と企業」 小川雅由
- No.17 「コミュニティでのしごとづくり」 中村順子
- No.18 「市民型公共事業—霞ヶ浦アサザプロジェクト」 飯島博
- No.19 「NPOと行政とのパートナーシップのためのしくみづくり」 白石克孝
- No.20 「電子ネットワークとNPO—藤前干瀧に学ぶ情報社会の広報戦略」 松浦さと子
- No.21 「市民風車が開く地域社会の希望」 三上亨
- No.22 「連携の可能性をさぐる—おうみ市民活動交流会の記録」
- No.23 「NPOの本質とその経営とは」 加藤哲夫

ご希望の方は、下記の事項を記入のうえ、淡海ネットワークセンターまでお申し込みください。

- お名前 ●送付先住所 ●連絡先(電話番号・FAX番号・メールアドレス)
- 希望のブックレットの番号および冊数

## 滋賀会館シネマホール 1月の上映予定

### 『スウィングガールズ』

1月 4日(火)～10日(祝) 10:10 / 14:15 / 18:30  
1月12日(水)～16日(日) 10:30 / 14:55  
1月19日(水)～23日(日) 12:35 / 19:10

### 『純愛中毒』

1月12日(水)～16日(日) 12:40

### 『藤野行 わらびのこう』

1月19日(水)～23日(日) 10:10 / 14:40

## ◆リクエスト受付中!

上映してほしい作品名と住所、氏名、電話番号を記入の上、ハガキ、ファックス、または電子メールで淡海ネットワークセンターまでお送りください。

- ・各回入替制 ・料金は作品によって異なります
- ・毎週水曜日1,000円均一サービス
- ・毎週木・金曜日の初回&16:00以降の回1,200円均一サービス
- TEL:077-522-6191 滋賀会館シネマホール



# 行って来て見て 情報BOX 1・2月

ここに掲載できなかった情報はセンターホームページに掲載しています。http://www.biwa.ne.jp/ohmi-net

## イベント

### 劇団「かいつぶり」第12回自主公演 一滋賀会館50周年記念一

▶ 2月11日(金) 18:30~  
▶ 2月12日(土) 14:30~

※開場は各30分前  
演名●「日本漂流」黒川欣映作  
あらすじ●主人公の張長生は希望を胸に亡き父の国日本へやってきた。慣れない日本の生活に戸惑いしだいに生きる気力を失っていく…。社会へ問題提起した作品です。  
場所●滋賀会館大ホール  
参加費●前売1,000円 当日1,200円  
【問】劇団「かいつぶり」  
TEL/FAX:077-567-4909(鈴鹿)

### 第7回熱人談義 「市民がつくる映画文化」

▶ 1月16日(日) 8:00~

1月25日(火) 18:30~  
場所●まちづくり大津百町館  
参加費●500円  
【問】NPO市民熱人 FAX:077-522-2997  
URL:http://www.geocities.jp/nposhiminnet/top.html

## 勉強会・交流会

### 餃子作りと春節交流会

▶ 1月15日(土) 9:30~

内容●中国人留学生らの指導による本場の餃子作りと料理を囲む春節を祝う会  
場所●彦根市民会館 2階 会議室および料理教室  
参加費●一般2,000円 学生1,000円 中国人留学生、研修生は無料  
その他●エプロンとあれば種棒(小)をお持ちください。  
【問】彦根市日中友好協会(宮下方)  
TEL:0749-22-3737  
市民・国際交流サロン  
TEL:0749-22-1411  
(内線590) ※火曜日は休館

### 大津NPOセンター・まちづくり・地域医療推進事業

#### 「乳がんから身を守る第一歩～早期発見の大切さと治療まで」

▶ 1月23日(日) 13:30~

場所●ピアザ淡海県民交流センターピアザホール  
内容●「自己検診と医療による検診、そして診断」大津市民病院外科医長・洲崎聡先生・「乳がん治療の現状」加藤乳癌クリニック院長・加藤誠先生シンポジウム  
【問】大津NPOセンター  
TEL:090-1904-1104(森口)

### 三方よし理念講座と座禅の会

▶ 1月22日(土) 10:00~

場所●永源寺町「永源寺」  
参加費●3,000円(昼食代、拝観料含む)  
【問】三方よし研究所  
TEL:0749-22-0627  
e-mail:info@sanpoyoshi.org

### NPO法人CASN講演会 「チャイルドラインと子どもの権利」

▶ 1月16日(日) 13:00~

講師●子ども情報センター所長 田中文字氏  
場所●生活協同組合コープが本部 コーペゼ2Fホール  
参加費●500円  
※託児あり500円(おやつ代)要申込  
【問】NPO法人CASN  
TEL/FAX:077-537-5922

### DV(ドメスティックバイオレンス) ～パートナーとの関係を考える～

▶ 1月23日(日) 13:30~

場所●大津市生涯学習センター4F視聴覚室  
内容●DVの実態について当事者から話を聞き、パートナーとの関係をともに考える  
【問】0203の会  
TEL:077-543-5169(小田島)

### 近畿ろうきんNPOフォーラムin滋賀

▶ 1月29日(土) 13:00~

テーマ●「地域の資源を地域に活かす～NPOとつくる豊かな社会～」  
内容●市民・企業・労働組合・自治体の持つ多様な資源を地域に活かせるような事例報告とともに「市民が自発的に市民活動に関われるような動機付けや具体的な仕組みづくり」を提案する場として開催します。  
基調講演●「循環型社会の地域モデルをつくろう」滋賀県環境生活協同組合理事長 藤井絢子さん  
活動紹介●赤野井湾流域の住民の循環保全活動/辻ひとみさん(特定非営利活動法人びわこ豊稗の郷調査活動部会長)  
・東近江を対象とした市民活動・NPOの支援/山田実さん(東近江NPOセンター運営委員長)  
・小規模・地域密着・多機能のケアをサポート/溝口弘さん(街かどけあ滋賀ネット世話人代表)  
分科会●第一分科会「NPOと個人の多様な関わりによる、地域づくりの新たな可能性」・第二分科会「小さな自治と地域NPO」・第三分科会「豊かな地域づくりにおける企業・労働組合の役割とは」  
場所●ピアザ淡海県民交流センター  
参加費●無料 定員●300名  
参加申込●お名前(フリガナ)、所属団体名、住所、連絡先電話番号、参加希望の分科会を明記のうえ、センターまでお申し込みください。  
【問】淡海ネットワークセンター  
TEL:077-524-8440

### 琵琶湖お魚ネットワーク交流会

▶ 2月27日(日) 10:00~

内容●琵琶湖淡水生態系の保全のために、琵琶湖流域で活躍しているみなさんと共に、企業、行政と協働しながら、琵琶湖流域の魚のモニタリングを行い、現状を把握したうえで流域の町づくりに生かそうと「琵琶湖お魚ネットワーク」を設立しました。多くの方の参加をお待ちしています。  
場所●琵琶湖博物館大ホール・実習室ほか  
申込み等●申込不要、参加無料  
※先着250名の方 魚つかみの楽しみ方(調査の仕方・魚のみわけ方)冊子贈呈  
【問】琵琶湖博物館内「うの会」事務局  
住所:〒525-0001草津市下物町1091  
TEL:077-568-4832(直通) FAX:077-568-4850  
e-mail:uonokai@lbn.go.jp

### 講演会「じょうぶな子どもを育てる食生活

▶ 2月26日(土) 14:00~

講師●幕内秀夫氏  
場所●近江八幡市人権センター  
参加費●前売800円 当日1,000円  
※託児あり(要申込・500円/人・定員20名)  
【問】学校給食と子どもの健康を考える会滋賀支部  
TEL/FAX:077-558-0538(渡辺)

### 税理士によるNPO法人税務・会計相談室

▶ 第1・3水曜日 13:30~16:30

内容●日々の会計処理、決算にかかる各種会計書類や申告書の作成について相談ができます。相談無料。  
※受付は4時まで  
※祝祭日、夏期(8月10日~20日)、年末年始(12月21日~1月10日)、2月1日~3月31日は休室  
場所●近畿税理士会館5階(地下鉄天満橋駅4号出口上 京阪天満橋駅南へ3分)  
【問】近畿税理士会事務局業務2課  
TEL:06-6941-6886  
URL:http://www.kinzei.or.jp/

## 参加者募集

### 自然・生活体験キャンパス 冬のくつき子ども村

☆PART1:1月3日(月)~5日(水) (2泊3日)  
☆PART2:2月11日(金)~13日(日) (2泊3日)  
場所●朽木村平良分校  
参加費●いずれも13,000円  
予定プログラム●雪上サッカー、雪合戦、雪像コンテスト、クイズバトル、ダンス・ジャンプマンなど  
※食事の用意とあとかたづけは、班ごとに交代で行います。  
※就寝は2段ベッド。お風呂は、中浴場があります。  
※幼児も大人も参加できます。(5歳未満は無料)  
【問】草の根農業小学校  
住所:〒520-3003 栗東市荒張1423-1  
TEL/FAX:077-558-0339  
URL:http://www4.ocn.ne.jp/kusanone/  
e-mail:kusanone@sweet.ocn.ne.jp

### LIVE KIDS VOL.15 アマチュアミュージック&ダンスフェスタ2005

内容●予選を勝ち抜いたアマチュアバンド&ダンスのコンテストです。  
開催日●  
DANCE部門:3月12日(土) 17:30~  
MUSIC部門:3月13日(日) 13:00~1  
司会●長田 和彦(α-STATION DJ)  
会場●京都府会館第2ホール 入場無料  
※出演を希望する方は、1月23日(日)迄受け付けています。  
【問】(財)京都ユースサービス協会「ライブキッズ運営事務局」  
URL:http://www.yk-kyoto.org/livekids2005/  
携帯HP:http://www.yk-kyoto.org/lk  
e-mail:k.y.serv@kyoto.email.ne.jp  
TEL:075-213-3681  
FAX:075-231-1231

## 助成金情報

### セブン-イレブンみどりの基金 「環境市民ボランティア活動助成制度」

「環境市民ボランティア活動助成制度」は、地域のお客様がセブン-イレブン店頭にお寄せいただいた募金を、「環境」をテーマに活動している市民ボランティア団体にお届けする制度です。  
この助成制度は4つの助成からなり、市民が主体となって活動する環境市民ボランティア団体により継続的、発展的に活動できるよう、さまざまな角度から支援を行っています。  
内容●(1) 活動助成 … 店頭に寄せられた募金の地域還元を主な目的として、地域に根ざした環境市民ボランティア活動を広く支援。物品購入費、活動告知費、旅費交通費などの活動資金を助成します。(2) 育成助成 … 環境市民ボランティア活動を継続して行うため、組織の基盤強化などを目的に、NPO法人の取得を目指す団体を支援。組織として立ち上げの3年間の活動資金を助成します。(3) 事業助成 … 環境市民ボランティア活動のモデルとなる事業、または先駆的な事業で、積極的に他の環境ボランティア団体にその成果と手法を普及できる事業を支援。その事業を完成させるための事業資金を助成します。(4) パートナーシップ助成 … 環境市民ボランティア活動を先駆的・総合的・組織的に行っており、その技術・ノウハウを他へ波及できる団体の事務局運営基盤を支援。  
専従者の人件費、事務所の家賃(それぞれ一カ月あたりの上限あり)を助成します。  
応募方法●ホームページからダウンロードするか、①団体名②書類送付先住所・氏名③希望の助成名を記入し事務局へファクシミリにて申込み  
応募締切日●(1)(2)2月28日(月)  
(3)(4)1月31日(月)  
※いずれも消印有効  
【問】セブン-イレブンみどりの基金事務局 担当 兵頭  
住所:〒102-8455 東京都千代田区二番町8-8  
FAX:03-3261-2513  
URL:http://www.7midori.org/



## 第3回（2005年）おうみNPO活動基金助成団体が決まりました

淡海ネットワークセンターでは、自主的なNPO活動が積極的に進められるよう「おうみNPO活動基金助成事業」を実施していますが、このたび助成団体を決定しました。

- 第3回募集期間：2004年9月1日～10月15日
- 応募NPO数：32団体
- 1次審査（書類選考）：11月16日に審査委員会による第一次審査を実施し、プレゼンテーションへ進む17団体を選考
- 公開プレゼンテーション：12月12日に17団体が参加して実施
- 第2次審査：プレゼンテーション終了後、直ちに二次審査を行い助成NPOを選考。審査の結果を受けて9団体への助成を決定。

採択団体	助成金額(円)
子どもの美術教育をサポートする会	1,030,000
山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	620,000
特定非営利活動法人西大津駅周辺防犯推進協議会	750,000
特定非営利活動法人NPO子どもネットワークセンター天気村	1,310,000
特定非営利活動法人やまのぼの会	1,650,000
特定非営利活動法人蒲生野考現倶楽部	1,520,000
特定非営利活動法人びいめる企画室	1,310,000
滋賀会館シネマホールファンクラブ	1,050,000
特定非営利活動法人CASN	1,000,000

## おうみNPO活動基金助成事業 成果発表会

第2回（2004年）おうみNPO活動基金助成事業助成団体による事業成果発表会を開催します。  
 ◇日時：2月27日（日）午後  
 ※時間、場所等詳細についてはセンターホームページ、メールマガジンにて後日お知らせします。

## ●イベント報告● 第3回わくわく市民活動セミナー 12月7日(火) 開催



12月7日（火）に（財）滋賀県国際協会との共催で開催。今回は「ボランティアリーダーのための組織づくり講座～思いを行動に移し、3年で成果を出す組織へ～」と題し、マネジメント力向上をねらったもので、朝10時半から夕方4時半までの丸1日のゼミナールでした。講師の田村太郎さんの巧みな話術とワークの進め方に、参加者からは「これまでもやもやとしていた悩みが明るく開けた気がします。ボランティアが抱える問題を解決する糸口、筋道の立て方が分かりました」、「内容が充実していて、ワークによって自分の考え方の甘さや事業内容の乏しさを知ることができよかった。お話も楽しくて良かった」「内容も分かりやすく、持ち帰り明日から実践すべき点があった」と好評でした。

## おうみ未来塾第5期生 研究成果発表会

おうみ未来塾5期生の4つのグループが1年かけて研究してきた成果を発表します。  
 ◇日時：3月5日（土）13：30～  
 ◇場所：ピアザ淡海県民交流センター207会議室

## NPOのための会計・税務講座（仮）

◇日時：1月23日（日）  
 ※時間、場所等詳細についてはセンターホームページ、メールマガジンにて後日お知らせします。

## 編集後記

岩根公民館に集まったさまざまな国の人たちが。作業服の青年、子ども連れの女性、手を包帯で巻いた男性など、お国柄と共に暮らしを感じました。甲西国際交流サークルの方々には、相手の課題に合わせマンツーマンで日本語の微妙なニュアンスを伝えるなど、丁寧な対応にその熱意を思いました。ともにご活躍をお祈りします。（編集ボランティア 井上）

今回を機に、今まで自分が考えていたよりも、うんと近くに「国際化社会」があること、そして、彼らを取り巻く問題の深さに、衝撃を受けました。今ある明るい兆しを、何としてでも大

きくしていきたいと思えます。（編集ボランティア 村上）  
 .....  
 私的な話ですが、今回取材したコリアン生活サポートセンターの全理事長は以前職場でお会いしていた方でした。当時パート勤務されていたのですが、その傍らに日問題で奔走されていたということです。ホント人は多面体ですね。いま出会っている人々もそれぞれ地域で別の顔をもっているでしょう。出会いの面白さを感じる取材でした。（編集ボランティア 松田）

## 3月号のアンケート

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで下記までご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。アンケート締切：1月末日

- Q1/あなたは滋賀県が好きですか？  
 a.はい b.いいえ c.どちらでもない
- Q2/滋賀県であなたが自慢するとしたら？  
 a.琵琶湖 b.鮎寿司 c.信楽焼 d.近江牛 e.その他
- Q3/滋賀県が一番良いと思う点は？  
 a.環境意識が高い b.福祉先進県 c.NPOが活発だ d.自然が豊か e.交通が便利 f.その他
- Q4/滋賀県に今一番欲しいものは？  
 a.遊園地 b.IT企業 c.エコ体験施設 d.有名ブランド店 e.プロスポーツスタジアム f.その他
- Q5/滋賀県知事に一言、2005年に望むことは何ですか？



## 淡海ネットワークセンター (財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20  
 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442  
 ■http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net  
 ■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp  
 ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日（12/29～1/3を除く）  
 火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。  
 ・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さくらホール、滋賀銀行、滋賀県信用組合、郵便局（ボランティア貯金窓口）、公民館など



©無断転載を固くお断りします。

